

徒然草『高名の木登り』定期テスト対策問題（解答・解説つき）（問題編）

組 番 氏 名

／100点

本文

高名の木登りといひしをのこ〔①〕、人を掟てて〔②〕、高き木に登せて梢を切らせしに、いと危く〔③〕見えしほどは言ふこともなくて、降るる時に軒長〔④〕ばかりになりて、「あやまちすな〔⑤〕。心して降りよ」と言葉をかけ侍りし〔⑥〕を、「かばかりになりては、飛び降るるとも降りなん〔⑦〕。いかにかく言ふぞ〔⑧〕」と申し侍りしかば〔⑨〕、「その事に候ふ〔⑩〕。目くるめき〔⑪〕、枝危きほどは、おのれ〔⑫〕が恐れ侍れば申さず。あやまちは、安き所になりて、必ず仕ること〔⑬〕に候ふ」と言ふ。

あやしき下臈〔⑭〕なれども、聖人の戒めにかなへり〔⑮〕。鞠も、難き所を蹴出して後、安く思へば必ず落つと侍るやらん。

設問

1. 現代語訳

- 傍線部〔⑤〕「あやまちすな」を現代語訳しなさい。
- 傍線部〔⑧〕「いかにかく言ふぞ」を、誰のどのような気持ちがこめられているかがわかるように現代語訳しなさい。
- 傍線部〔⑬〕「安き所になりて、必ず仕ること」を現代語訳しなさい。
- 傍線部〔⑮〕「聖人の戒めにかなへり」を現代語訳しなさい。

2. 文法・敬語

- 傍線部〔⑤〕「あやまちすな」の「な」は何を表すか。文法的に説明しなさい。
- 傍線部〔⑦〕「降りなん」の「な」「ん（む）」の文法的意味（助動詞の意味）をそれぞれ答えなさい。
- 傍線部〔⑧〕「いかにかく言ふぞ」には係り結びがある。係りの助詞と、それによって結びがどう変化しているかを説明しなさい。
- 傍線部〔⑥〕「かけ侍りし」、〔⑨〕「申し侍りしかば」、〔⑩〕「候ふ」の敬語の種類（尊敬・謙譲・丁寧）をそれぞれ答えなさい。

3. 語句

- 傍線部〔②〕「掟てて」の意味を答えなさい。
- 傍線部〔④〕「軒長ばかり」とはどのくらいの高さか、わかりやすく説明しなさい。

11. 傍線部〔⑪〕「目くるめき」の意味を答えなさい。

12. 傍線部〔⑭〕「下臈」の意味を答えなさい。

4. 内容理解

13. 木登りの名人は、なぜ高い危険な所では何も言わず、安全な低い所まで降りてきてから初めて注意の言葉をかけたのか。本文に即して説明しなさい。

14. 本文で作者が述べようとしている教訓を、「油断」という語を用いて二十五字以内で説明しなさい。

5. 文学史

15. 『徒然草』の作者名と、この作品のジャンル（文学上の分類）を答えなさい。また成立した時代を答えなさい。